

看護福祉学部

学校推薦型選抜(一般) 小論文

問題 以下の文章は、医療・健康・介護のニュース・解説「見守り介護ロボ 老人ホームで
実証実験 入居者を混乱させない技術備える・・・ソニーグループ開発」の記事（ヨミ
ドクター2023年7月24日・野口博文）から抜粋したものです。この文章を読んで問に答
えなさい。

ソニーグループ（東京都港区）が、介護施設向けのロボット開発を進めている。多忙な職
員に代わり、入居者とコミュニケーションを図りつつ、見守る機能の確立を目指す。子ども
のような親しみやすい容姿と、認知症のケア技術を取り入れた独特な動きが特徴で、介護施
設での実証実験でも入居者の反応は上々という。

「おばあちゃん、おっはよー。今から行くよ」。先月2日、特別養護老人ホーム「よみう
りランド花ハウス」(川崎市) 1階の共有スペースで、高さ83センチのロボットが88歳の女性
入居者の正面から、かわいい声で話しかけた。時折、大きな目をぱちくりさせつつ、首をか
しげた。

登場したのは開発中の見守りロボット「HANAMOFLOR（ハナモフロル）」だ。「はな
ちゃんと呼んでね」。前もって組み込まれたプログラムどおり、女性の左隣までゆっくり移
動し、再び声をかけた。

孫が祖母に甘えるように、ロボットは女性と視線を合わせ、「『きらきら星』を歌いましょ
う」と誘った。女性も一緒に歌を口ずさんだ後、「上手だね。かわいいわ」と笑った。

同社で開発を担当するAさん（43）によると、このロボットの特徴は、高齢者に少しずつ
近づいて声をかけたり、視線が合ってから会話を進めたりする動きだ。フランス発祥の介護
技術「ユマニチュード」の手法で、高齢者を驚かせたり、混乱させたりしない効果がある。

開発にあたり、Aさんらは同施設で職員の日常を分析。職員が入居者の個室でトイレ介
助などを行う際、共有スペースで過ごす多くの入居者の見守りが手薄になることが分かっ
た。入居者によっては職員の姿が見えなくなると、落ち着きを失い、怒り出す。職員が手薄
な時間帯をロボットで補うには、まず入居者に受け入れてもらう必要がある。そのため、同
社はこの介護技術の導入を決めた。

実験後、同施設の介護福祉士のBさん（37）は「入居者が生き生きとしている」と話し
た。施設長は「職員にとって、見守りが手薄な時に助けてくれる『相棒』のような存在に
なってほしい」と、期待を述べた。

このロボットは現在、体温計測などもできるが、プログラムに沿った動きにとどまる。同社は今後、人工知能（AI）や顔認証システムを導入し、入居者を1人ずつ判別し、自然な会話ができるようにしたいという。Aさんは「多くの高齢者に喜んでもらえるロボットにしたい」と語っている。

問1 このロボットに組み込まれたプログラムの特徴を、50字以内で述べなさい。

問2 あなたが考えるロボットというケア技術導入の留意点を述べなさい。それを踏まえ、人間とロボットとの役割分担について、500字以内で述べなさい。